

科目名	医薬化学特論	選択	1単位
-----	--------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 橘高 敦史 教授 忍足 鉄太、准教授 杉山 亨、准教授 田畑 英嗣、講師 高野 真史						
------	---	--	--	--	--	--	--

開講年度	2020年度	配当年次	1～4年	配当学期	後期	授業方法	講義
------	--------	------	------	------	----	------	----

授業の概要	低分子医薬品および生体内で機能する糖類、核酸、脂溶性リガンドなどを中心に、生物活性物質の化学構造と作用との相関や生体成分との関わりなどを講義する。教員の問いかけに対して、受講者による議論参加型の講義とする。
-------	---

授業の到達目標	① 有機化学的視点に基づき、医薬品の基本骨格と薬効発現の相関関係を説明できる。 ② 創薬について概説できる。 ③ 臨床現場で医薬品に対する有機化学的造詣の深い薬剤師としての知識を有している。
---------	---

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	橘高 敦史 教授	化学構造に基づき水溶性医薬品と脂溶性医薬品の大別ができ、生体での作用点を説明できる(1)。
	2	杉山 亨 准教授	核酸の化学構造と機能について説明できる。
	3	忍足 鉄太 教授	補酵素などの生体成分や生理活性物質の生合成や機能発現の過程を有機化学的に説明できる。
	4	杉山 亨 准教授	核酸及びその関連物質の化学構造を理解し、生体分子との相互作用を説明できる。
	5	高野 真史 講師	生体内で起こる基本的な有機化学反応を、有機電子論に基づいて論理的に説明できる。
	6	田畑 英嗣 准教授	医薬品の生物活性発現と立体構造の関連について説明できる。
	7	橘高 敦史 教授	化学構造に基づき水溶性医薬品と脂溶性医薬品の大別ができ、生体での作用点を説明できる(2)。
	8	忍足 鉄太 教授	医薬品の活性発現や代謝の過程を有機化学的に説明できる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	事前学修として各回の行動目標に通じるため、有機化学・天然物化学・医薬品化学の教科書や関連書籍を読むことに12時間(各回1.5時間以上)を要する。 事後学修として、各回のノートのまとめと課題レポート作成に2.5時間(合計20時間)を要する。
----------------------	--

教科書	なし。
-----	-----

参考書	なし。
-----	-----

成績評価の方法および基準	課題レポート70%、授業への積極的な取り組みと建設的な発表意見30%で評価する。1回欠席につき5点を減点する。
--------------	---

その他履修上の注意事項	課題レポートに対し、講義の中で議論を深めるフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し、理解すること。
-------------	---